

家庭学習応援だより

第11号

令和3年度がもうすぐ終わります。明日は、卒業式並びに校旗返納式。明後日は、修了式です。新年度は、いよいよ大洋小学校が開校します。親子ともに期待と不安はあるかと思いますが、引き続き大洋小学校におきましても教育活動への皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

私自身も、子供が2年生に進級するとき6つの小学校が統合し、新しい小学校が開校しました。徒歩通学からスクールバスでの登校、一学年が2学級から3学級に学級増、初めてのお友達や担任の先生など、心配もありました。ですから、保護者の皆様のご心配もよくわかります。また、学校生活、子供や保護者への対応について今の小学校とは勝手が違うこともあるでしょう。不信に思うことがあるかもしれません。何度も言っておりますが、子供の成長にとっては、家庭と学校が手を取り合うことがとても大切です。間違っても、大洋小学校の教務部に「今年度(令和4年度)は『家庭学習応援だより』は、出してくれないんですか。」などの苦情はやめましょうね。

それは冗談として、今号で最後の「家庭学習応援だより」になります。どうぞお読みください。

新しい環境と習慣



4月からどの児童も統合小学校、中学校など新しい環境での生活が始まります。環境が変わる4月は、物珍しさにドキドキわくわくする子もいれば、一方で不安や戸惑いを抱えている子もいるでしょう。そんな子供たちに親御さんから、ぜひ伝えてほしいことがあります。それは、**新しい環境は「成長するチャンス」**だということです。なぜなら、これまでに自分の中で眠っていた、思ってもいない自分に変わる可能性があるからです。

直接、学力の向上に関係があるわけではありませんが、新しい友達との出会いや新しいクラスは、きっと子供たちに大きな刺激を与えてくれるはずです。多くの人と出会い、新しいものの見方や考え方に触れ、大きく変わっていくでしょう。こうした刺激を生かし、よりたくましく成長するためにすすみたいことがあります。それは**「新しい習慣を作る」**です。どんなことでも構わないのですが、それが**「家庭学習の習慣」**であることを切に願います。

九州大学大学院の荒木教授は、子供やその親にとっての環境の変化について以下のように述べています。

「(前略)人は誰もがとまどいながらも常に変化する環境に飛び込み、倒れては起き上がり、適応を模索し続け、人生を歩んでいくと言えます。その中でもいくつかの節目である大きな環境の変化があります。幼稚園・保育園、小学校、中学校、高校、大学という変化に富んだ学校生活を軸にして子どもは成長していきます。

(中略)大人との相互作用の中で、子どもは新しい環境に飛び込んでいきます。大人もまた変化する子どもを適切に支えるという新しい状況で、子どもと同様に試行錯誤を繰り返し、適切な支え方を模索し、適応していくのだと考えられます。子どもの力を損ねることなく、大人が望む軌道に引き込み過ぎず、倒れて立ち上がる子どもをしばらく見守り続け、必要な時に適切な支えを提供する姿勢が持てる大人になりたいものです。」

コミュニケーションボード



裏面では、1年間の子供たちの学習の様子をお伝えしていきます。今年度の本校児童の実態から、学習面での課題は、全体的な**「協働的な学び」**の希薄さが言えます。「協働的な学び」とは、**「異なる多様な他者との学び合い」**のことを指しますが、もう少しかみ砕くと、**【級友との話し合いなどにより、多様な考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりする一連の学習過程】**のことです。次年度へのステップのためにぜひお読みいただければと思います。(※最後の**「コミュニケーションボード」**だからと言って、担任からのお別れの言葉ではありません。)

1年間の学習の様子(第1学年担任 菅谷教諭)

3月から自主学習を始めましたが、多くの子供たちが意欲的に家庭学習を行っていました。今後も、この姿勢を続けていってほしいと思います。

学習面での課題としては、国語は作文だと思います。淡白な表現になってしまうことがあるので、語彙を豊かにしていけるとよいです。また、算数では図形に課題があるように思います。全体的には意欲的に、学習に臨んでいました。

1年間の学習の様子(第2学年担任 河野教諭)

学年の初めと比べて、学習のきまりなどを守れる児童が多くなり、落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきました。

漢字をがんばっている児童が多く、自分の意見や考えを発表することなどもできるようになってきました。

保護者の皆様が宿題を気にかけてくださるようになり、提出忘れが少なくなってきました。

1年間の学習の様子(第3学年担任 重藤教諭)

授業に集中し、正しい姿勢で取り組むことができるようになってきました。また、学習内容の基礎的基本的な内容を理解できるようになってきています。

算数については、計算の工夫ができるようになってきていますし、理科についても、理科の学習が好きな児童が多く、実験を通して事象や現象を捉えることができるようになりました。

1年間の学習の様子(第4学年担任 佐野教諭)

自分の考えに説得力を持たせるようにするために、絵図を使って工夫できるようになってきました。また、自分の考えを言語化することが苦手な児童も克服しつつあるように思います。

特に、端末を使ってまとめたり、発表のための材料を準備したりすることが日常になり、使いこなせる児童が多くなりました。

1年間の学習の様子(第5学年担任 金澤教諭)

5年生は、算数の学習内容が多く、内容も難しいのですが、苦手な単元や課題に直面するとその課題を避けようとする姿勢が気になります。

ただ、児童によっては授業中の理解は十分でなくても、ご家庭のサポートや本人の家庭学習の習慣化によって、理解を深めてくる子がいます。そうした子どもたちは、やはり成果に表れています。

苦手や根気が必要な課題に向き合えるとよいです。

1年間の学習の様子(第6学年担任 宮内教諭)

わからないことや難しい課題について、端末を使って調べることができていました。ただ、端末に頼り切ってしまうことがあり、自分で考える時間をじっくり取れるとよいのかなと感じます。

道徳などの学習では、自分の意見や考えを発表したり、友達に伝え合ったりすることができるようになってきました。今後の課題は、道徳的な判断や価値の理解はできる児童が多いので、どう実践に生かすかだと思います。

おわりに 【保護者の皆様への応援メッセージ】

子育ては本来、楽しいもののはずです。ところが、実際は誰もがそうかという、そうでもないような気がします。保護者の皆さんと話していると「子供が言うこと聞かない」、「子供がやるべきことをやらない」、「子供を毎日怒ってばかり…」という話をよく聞きます。なぜなら、みなさん「こうなってほしい」、「これをできるようにさせないと」という「親の願い」があるからです。それはよいと思うのですが、この「親の願い」は度が過ぎると「親の欲」に変わります。この「欲」が皆さんを苦しめている根源なのではないでしょうか。

少くも手は抜いたって大丈夫です。一見、仕事と家事、育児を上手にこなしていそうな親御さんでも、何かしら不得意や苦手があるものです。がんばってしまう人の中には、「周囲にどう思われるだろう。」と、考えすぎてしまい自分にプレッシャーをかけてしまう方がいます。また、「一生懸命なのはわかりますが、もう少し周りのことも考えたらどうですか。」という我が子ファーストの方もいます。いずれにせよ、「(親として)うまくできなくても、誰も怒らないのに。」と見ていて思うのですが…。とはいえ、我が子を目の前にすると難しいですね。

本当の「おわりに」になりますが、今一度、お子様が生まれたときのことを思い出してみてください。生まれてすぐの赤ちゃんに、皆さんは多くのことを望んだでしょうか。「生まれてきてくれてありがとう。」という気持ちでいっぱいだったはず。子供が成長するにしたがって、一緒に過ごせる時間はどんどん少なくなり、子供はいずれ自立していきます。今(小学生)のうちに、親子ともに毎日を楽しみ、その喜びを味わってほしいです。

